

★ 釧路のまちづくり
海外都市と比較研究 ★

北大院生

市街地活性化提案へ



大学院生の斬新なアイデアが披露された意見交換会

北大大学院工学研究院で建築都市空間デザインを学ぶ学生9人が、釧路市の中心市街地の活性化をテーマにまちづくりの研究を進めている。年度内に研究成果をまとめた都市デザインの発表会を釧路で開催する予定で、17日には釧路を訪れ、市職員や経済人らと意見交換会を行った。(柳沢郷介)

年度内発表

ネットワークフォーラム(座長・宮田昌利) 学生は修士課程1年(サンエス電気通信社で、後期の演習として長)の例会で講演した10月から取り組んでい(ことがきっ)かけだ(る。釧路での研究は、)た。

指導する建築計画学研(生) 学生たちは昨年11(月、同フォーラムの協) 究室の森傑(教授が昨) 年6月、釧路の企業経(営者らでつくる「釧路) 街や釧路川周辺などを) 根室圏まちづくりの) 見学し、世界各地の都

「幣舞橋付近に新駅を」

市の事例と比較するな(ど研究を重ねてきた。)

意見交換会では、学(生たちが中心市街地の) 問題点として、JR釧(路駅から幣舞橋までの) 距離の長さなどを指(摘。幣舞橋付近まで線) 路を敷き、釧路フィッ(チャーマンズワーフM) OOと一体となる新駅(建設などを提案。経済) 人側からは「(移転す) 大川町の日銀釧路(支店の跡地利用を考え) てほしい」などの要望(が出された。)

メンバー唯一の釧路(市出身者の野村武志さ) ん(23) 釧路湖陵高卒(は「外から見つめる) と、住んでいたところ(には気づかなかつた問題) 点を発見できる。釧路(がより魅力的になるよ) うな洗練された提案を(したい)」と意気込む。

駅を幣舞橋たもとに

北大生が街づくり提案

釧路で懇談会

釧路根室圏まちづくりネットワークフォーラム(宮田利彦氏)と釧路市中心市街地活性化を演習する北大大学院工学研究院建築都市空間デザイン部門空間計画分野建築計画学研究室の学生との懇談会「北大大学院演習in釧路中間報告・意見交換会」が17日、釧路キャッスルホテルで行われ、釧路らしさを感じさせる街づくりとして学生から釧路駅を幣舞橋のたもと(案)持ってくる大胆な提案が報告された。(奥山哲也)

この日は、同研究室の森保教授をはじめ、同大都市空間デザイン専攻の学生7人、まちづくりネットワークの会員、釧路市役所職員ら22人が参加。学生らは昨年11月、釧路市中心街のフィールド調査を実施。これらを基に検討を重ね、まとめた提案に対して地元からの意見を求めた。



釧路らしさを感じる街づくりを提案する学生



構想するには長く、交通量も多い「幣舞橋-北大通エリア」には、大連を商業・宿泊と大学・緑化にエリア分割。また、大通の西側に特急専用の高架橋を設置し、釧路幣舞駅を新設し、E-GGを含む3街区に再編。「耐震ハースエリア」は、蒸気船を核にブリックアートや歴史や文化を語る広場。「入舟エリア」は、平日はゆつくりの過す落ち着いた場所。休日は人の流れと滞留が起る場所。「大川町エリア」は、グループホームや民宿、ホテル、マンションなど住環境エリアと色分けしている。

参加者からは「各エリアの詳細をもっと見てもいい」「構想をどう実現していくのか」「同じスケールの都府県に比べて、釧路は中心街の役割を減らしていくことが重要で、北大通は文化や社会的な中心とする」とは可能かと思ふこと分析していた。

森教授は「人口減少は地方にとって深刻な問題だ。時代とともに街の構造が変わっていくのは当然。釧路は中心街の役割を変えていくことが重要で、北大通は文化や社会的な中心とする」とは可能かと思ふこと分析していた。

幣舞橋周辺に特急ターミナル移転を

まちネットらと意見交換

【釧路】北大大学院で建築都市空間デザインを専攻する7人は、演習の一環として作成に取り組んでいる釧路市のまちづくりプランの方向性をまとめた。17日に釧路キャッスルホテルで開いた中間報告会で、前回懇談した釧路根室圏まちづくりネットワークフォーラム(宮田昌利座長)のメンバーや釧路市の職員らに、特急ターミナルを幣舞橋付近まで引き込むなどの大胆な案を伝えた。

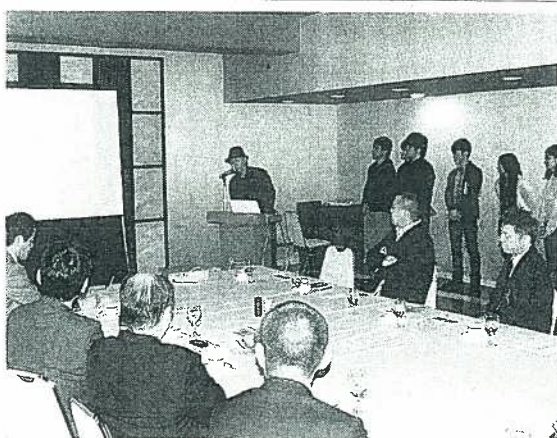
学生たちは、釧路の繁栄を支えてきた釧路川河口部にこそ釧路らしさを感じ、幣舞橋を中心として駅側に向かう北大通エリア、河口部右岸の耐震ハ

ースエリア、河口部左岸の入舟エリア、上流側右岸の末広エリア、上流側

左岸の大川町エリアの5ブロックに分けたまちづくりを提案した。

北大通エリアでは、釧路駅を西寄りに移して北

北大院生が釧路市のまちづくりプランに取り組む



北大通エリアでは、釧路駅を西寄りに移して北

ターミナル移転など大胆な方向性を示す学生たち

大通の西沿いに高架を設け、特急ターミナルを幣舞橋たもとまで引き込むという大胆な計画を披露。「18万人の人口規模では、北大通すべてのにぎわいを維持することはできない」として、ターミナルに近い川寄りを商業・宿泊ゾーン、駅寄り

を大学・緑化ゾーンに分割。大学・緑化ゾーンでは、空き店舗などを活用し、医療系や環境系大学の誘致や、周辺大学のサテライトキャンパス設置などを検討するとした。

末広エリアでは、飲み屋街と川の距離感を生かすため、国道沿いに駐車場を確保して河畔の駐車場を広場化。店舗は川に向かつてオープンな立面とし、低層に抑えることでエリア全体と川の結び付きを強めることも、日中1人でのんびりすることもできる空間とする。

港の歴史を感じさせる古い倉庫群が残る耐震ハースエリアは、倉庫群のリノベーションやパブリックアートの配置などで川や海とともに生きてきた釧路の歴史や文化を感じさせるエリアに再生。入舟エリアには漁船や市場、漁協などを集積し、漁港としての景観を強調。デッキなども整備し、平日はゆつくり過ごせる場所、休日には人の流れや滞留がおこる場所に生まれ変わる。

大川町エリアは、河口の景観を生かした住環境ゾーンとし、グループホームやホテル、民宿、マンションなどを配置。施設間をデッキや屋根などでつないで中間領域を生み出し、人々の交流を促進する。

フォーラムメンバーや市職員からは「釧路川は大きな財産だから大切に気付けられた」「既存の都市計画などがごびりついているわれわれからは出てこない発想」など感嘆の声が上がった。

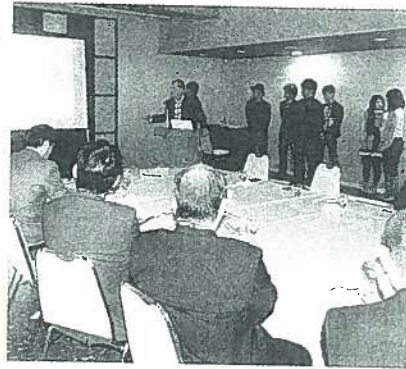
北大大学院の森傑教授は「都市は時代とともに構造が変わっていく。『言にきわつていたら』というノスタルジックな思い入れだけで無理やりその機能を維持しようとするのは間違い」と情緒的な中心市街地活性化論を一刀両断。「北大通が経済的中心を担い続けることは無理でも文化的、社会的中心に生まれ変わることは可能。どう転換すればまち全体が豊かになるかを考えていかなければならない」と主張した。

さらにプランを具体化させた学生たちの最終報告会を、2月中旬～下旬ごろ市民にもオープンな形で開く方針だ。

釧路圏まちとくらしネットワーク

活性化方策等で意見交換

北大大学院生がプラン提案



【釧路発】釧路根室圏まちとくらしネットワークフォーラム（座長・宮田昌利

サンエス電気通

信(株)社長)は十

七日、釧路キャ

ッスルホテルで

北大大学院生と

の懇談会を開催

した。写真。二。

都市空間アサイ

ン学を専攻する

学生が釧路のま

ちづくりに関す

る研究成果の中間報告を行

い、地域活性化の在り方に

ついてフォーラム関係者と

率直に意見交換した。

今回招いたのは、北大大

学院の森傑教授の研究ク

スペインのバルセロナと比較し、人口や経済の規模に応じた都市計画の構築、「歩行」のための空間づくりと風景づくりが必要とした。

具体的な再開発のプランとして、JR線を幣舞橋付近まで延長して新駅を設置したり、釧路川に橋をもう一つ架けて新たな人の流れを生み出すなど、学生ならではの斬新なアイデアを提案した。

意見交換では、フォーラム側から、「最終的には住んでいる住民の責任。あれもこれも」ではなく、生活の場を構築するための都市計画が必要、「きょう提案したプランをどうやって実現していくか、今後は一歩踏み込んだ研究をしてほしい」などの声が聞かれた。

学生は、釧路の現地調査の結果を紹介。札幌、神戸、

参加した。

釧路市役所の関係者六人も

側からは六人、さらに地元

ループ計十人。フォーラム

側からは六人、さらに地元

ループ計十人。フォーラム

側からは六人、さらに地元

ループ計十人。フォーラム

側からは六人、さらに地元

ループ計十人。フォーラム

側からは六人、さらに地元

ループ計十人。フォーラム

側からは六人、さらに地元

ループ計十人。フォーラム

側からは六人、さらに地元

ループ計十人。フォーラム

側からは六人、さらに地元

ループ計十人。フォーラム

側からは六人、さらに地元

ループ計十人。フォーラム

側からは六人、さらに地元

ループ計十人。フォーラム

側からは六人、さらに地元

ループ計十人。フォーラム

側からは六人、さらに地元

ループ計十人。フォーラム

側からは六人、さらに地元

ループ計十人。フォーラム

側からは六人、さらに地元

ループ計十人。フォーラム

側からは六人、さらに地元

ループ計十人。フォーラム

側からは六人、さらに地元

ループ計十人。フォーラム

側からは六人、さらに地元